

麦作

- ・「北海道 麦作りに挑む人々」その8
- ・平成29年新品種 二条大麦新品種「礼育2号」
- ・平成29年 新技術の概要紹介

稲作
麦作

- ・平成28年度 稲作・麦作総合改善研修会を開催しました

稲作

- ・第54回(平成28年度)北海道優良米生産出荷共励会審査結果



平成28年度稲作・麦作総合改善研修会（札幌市）

会報誌「北海道米麦改良」はホームページでもご覧になれます。
<http://www.beibaku.net/>

一般社団法人 北海道米麦改良協会

売れる米を 低コストで 安定生産

めざそう 小麦の 品質向上

適正な 農産物検査の 実施



も く じ

麦作	「北海道 麦作りに挑む人々」その8	1
	平成29年新品種 二条大麦新品種「札育2号」	6
	平成29年 新技術の概要紹介	9
稲作・麦作	平成28年度 稲作・麦作総合改善研修会を開催しました	12
稲作	第54回（平成28年度）北海道優良米生産出荷共励会審査結果	13

麦 作

「北海道 麦作りに挑む人々」その8

訓子府町字高園 ^さ佐 ^{とう}藤 ^{はる}晴 ^お生

1. はじめに

オホーツク総合振興局は、主な振興局における秋まき小麦（以下、小麦）の反収（21～27年までの最高、最低を除いた5年平均）で、トップの座にある。（図1）。

その中でも訓子府町の小麦生産は、斜網に次ぐ高収量地帯となっている。

特に、この地に入植して4代目の佐藤晴生氏（41才）は、祖父の頃から種子ばれいしょ生産を行っていることもあり、輪作体系には人一倍気を使ってきた。また、最近ではたまねぎの一部にも小麦を取り入れ、文字どおり輪作体系の要として小麦を位置付けて高反収を得ている。その佐藤氏の小麦栽培について紹介する。

2. 地域の特徴および経営概要

(1) 訓子府町の気象および土壌条件

土壌は、黒ボク土あるいは多湿黒ボク土に分類される。台地上の軽石流堆積物やその二次堆積物の上に火山灰が堆積したもので、表層に腐植を多く含み、下層は堅く、排水はやや不良である。

佐藤氏が住む高園地区は、訓子府町の高台地区にあり、好天時には東に知床連山、西に大雪山系、南に釧北山脈を見渡せる一角にある。

内陸部のため気候は寒暖差が激しく、夏の最高気温は30℃以上、冬の最低気温はマイナス20℃以下にも達する。年間降水量は日本では最も少ない地域で、日照にも恵まれている。

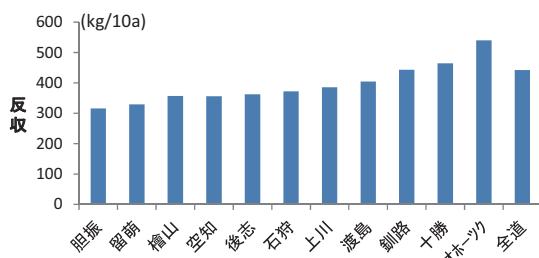


図1 主要な振興局の反収

(H21～27年 7中5)

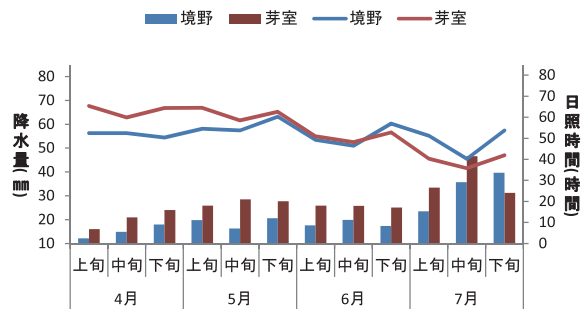


図2 2地区の降水量と日照時間の比較

(アメダス1981～2010年の平均)

左、棒グラフ～降水量、右、折れ線～日照時間



佐藤氏家族

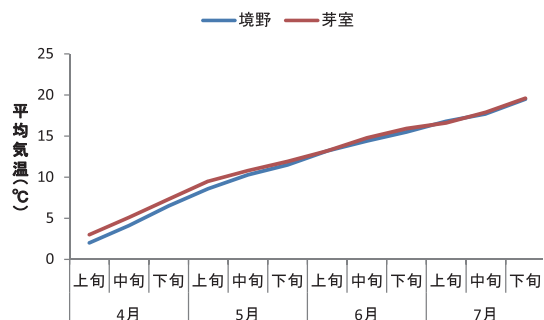


図3 2地区の平均気温の比較

(アメダス1981～2010年の平均)

積雪量は北海道内としては少ない地域である。

(図 2、3)

(2) 経営規模と作付け構成

佐藤氏の家族は、90歳の祖母と父母、そして妻と2人の子供の7人である。面積は、19.6haで畑作+野菜の複合経営である。作物

は、小麦、てんさい、加工用スイートコーン、種子ばれいしょ、たまねぎを栽培している。各作物の面積と輪作体系は、表1、図4、5のとおり。

3. 小麦栽培の経過と特徴

(1) 祖父の代からの小麦栽培

祖父の頃から小麦を栽培し現在に至っている。以前は、小麦の種子生産にも手がけ、手刈りやバインダーでの収穫やビニールハウスを使った乾燥・調製の経験もある。しかし、昨年のように1ト取りに近い反収は夢のようだと感慨深げにお父さんは話された。

(2) 収量・品質

かつての小麦栽培は、栽培技術や品種の特性など解らないことが多く、播種量でも12~13kg/10aと現在より多いのが一般的であった。その結果、穂数過多により倒伏が頻繁に発生した。それと同時に、穂発芽の発生もあり被害が大きかった。また、「きたほなみ」に変わってからも栽培技術や品種の特性が良くつかめず、不安定な生産が続いた。現在の播種量8kg/10a前後になって(表2)、ようやく安定した反収となったと言う。

佐藤氏の3年間(平成25~27年産)の平均

表1 作付割合 (H28年)

作物名	品 種	作付面積 (ha)	作付割合 (%)
小麦	きたほなみ	4.06	21
てんさい	-	4.0	20
加工用スイートコーン	-	2.3	12
ばれいしょ (種子)	男しゃく薯、さやか、きたひめ	3.0	15
たまねぎ	-	6.2	32
合 計	-	19.6	100

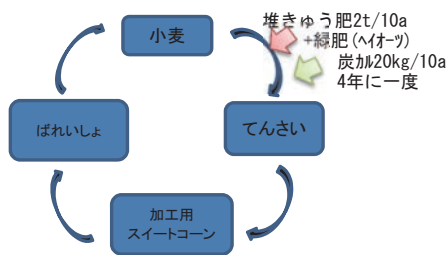


図4 平成27年までの輪作体系

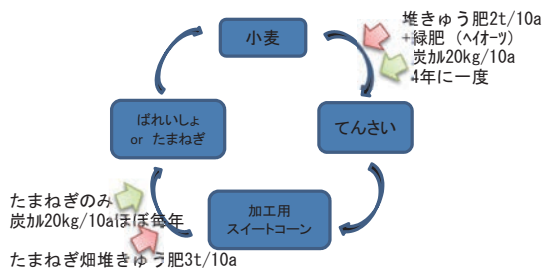


図5 平成28年からの輪作体系

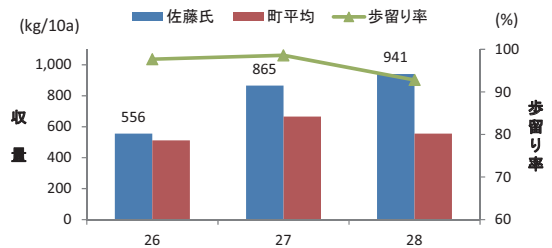


図6 佐藤氏と町との反収と歩留り率の推移

表2 耕種概要など (H28年産)

期	は 種 (kg/10a)		土性	施 肥 (kg/10a)				根雪始	雪腐病防除		
	量	方法		区分	窒素	磷酸	加里		月日	時期	使用薬剤名
9月25日	8kg/10a	畦幅30cm	火山性土	基肥	5.6	15.4	2.8	9月25日	H27. 11. 22	H27. 11. 5	フロンサイド水和剤
				追肥	7.35			4月14日			
					8.4			5月8日			
					7.35	2.25	1.5	6月2日			
合 計	28.7	17.7	4.3								

表 3 品質測定値 (28年産)

容積重 (g/ℓ)	F.N.(sec)	蛋白含量(%)	灰分含量(%)
861	418	11.3	1.47

表 4 病害虫防除等 (H28年産)

除草剤散布		融雪期	病害虫防除 (植物成長調整剤等)			備考
時期	剤名・散布量		対象病害虫防除	時期	使用薬剤・散布量	
10月7日	ガレース乳剤 150ml/10a	4月2日	植物成長調整剤	5月19日	サイコセルPRO・300ml	
			うどんこ・赤さび病	5月28日	チルト乳剤25 1000倍	
			赤かび病	6月14日	シルバキュアフロアブル 2000倍	
			赤かび病	6月21日	ベフトップフロアブル 800倍	
			赤かび病・アブラムシ	7月9日	チルト乳剤25 1000倍+ モスピランSL液剤 5000倍	

反収は、711kg/10aと町平均の1.2倍と高い。3年間の製品歩留り率では96%と高く(図6)、平成28年産の小麦品質評価項目でも、1等Aランクの格付けとなった。(表3)

しかし、図6を見て分かるように平成26年の反収が低かったのは、ラジコンヘリ利用による雪腐病防除の失敗が原因であった。薬剤が均一に散布されずに雪腐病が多発し、農耕寸前の状態に落ち入り、最終的に十分な穂数を確保できずに反収が大きく落ち込んだ。

4. 技術の特徴

(1) 基盤整備の徹底

どんな土地条件のところに入植するかは、その後の農家経営や家族労働に大きく左右する。しかし、全ての条件を把握して入植することは困難と思われる。

入植当時と変わらない現在地は、自宅を挟んで南北二つに沢があり、幼少の頃には、魚釣りやザリガニを捕まえて遊んだというほど水が流れていた。そのため、沢つたいに傾斜した土地が多く、表土も薄く粘土層が近かったため排水が悪かった。雨後には、周辺の農家に比べ2～3日も遅れての作業を余儀なくされた。加えて透・排水性不良は、当然作物の成長にも影響を及ぼした。

作業の遅れに対しては、夜なべして何とか

補うことはできたが、収量を補う手立ては少なかったと当時を振り返る。

そんな経験の中から、基盤整備の必要性を身に染みて感じたお父さんは、昭和59年から均平事業や暗きょ整備事業を継続し、ようやく昨年2回目の暗きょ工事で一通り目途がついた。

自宅周辺の航空写真を見ると、見違えるほど真っ平な農地に生まれ変わっている。この農地の状態に辿り着くまでに、約30年の月日を要した。最近その成果がやっと表れだしたという。

(2) 堆きゅう肥などの施用による土づくり

均平工事は、表土を削り、客土を入れるために作物生産にとって一時的にマイナスとなる事が多い。それを補うためにも、堆きゅう肥の施用などによる土づくりが必須だった。

堆きゅう肥の入手先は、以前は町外からであったが、現在は町内の酪農家から運んでもらっている。10トンのダンプで約30台。300トンを優に超える堆きゅう肥を麦稈と交換する。酪農家で1年寝かした堆きゅう肥を、さらに自家の堆肥場に運び1年寝かせる。ほぼ完熟した堆きゅう肥を、小麦の収穫後に2ト/10a、そして、たまねぎの作付け前に3ト/10a施用している。

また、炭カルなどの土壌改良剤も同じタイミングで、小麦収穫後には4年に一度位に20kg/10a、たまねぎの栽培前には、毎年20kg/10aずつ施用している。その他の資材は、土壌診断の結果により小麦の作付け前にハイグリーン（銅などの微量要素入り）を25kg/10a程度を施用し続けている。

最近になって、やっと人並みに取れるようになってきたと感じている。

(3) そうか病対策としてたまねぎを導入

10年前までは、畑作専門経営であった。しかし、そうか病の多発するほ場があって、そのほ場に回ってくると決まってそうか病が多発した。種子ばれいしょの生産ということもあり、種子として出荷できず、全量でん粉原料用に泣く泣く出荷した年もあった。経済的な痛手も大きかったので、そうか病が多発するほ場全面をたまねぎ栽培に切り替えた。その分、ばれいしょの面積が半減したこともあり、それ以来そうか病の悩みから解消された。

現在では、輪作体系の一部としてたまねぎも組み入れている。たまねぎ後の小麦の生育は、とても良く高反収にも貢献している。

(4) 播種床の作り方

出芽を揃えるには、播種床づくりの手は抜けない。そのため、小麦の前作物によってその工程は変わってくる。

ばれいしょやたまねぎ後の場合は、以下のとおりである。

- ① サブソイラ 1回
- ② スプリングハロ 1回
- ③ ロータリ 1回

また、スイートコーン後は以下のとおりである。

- ① 硫安散布 (20kg/10a)
- ② ロータリ 2回深さ約10cm (攪拌する)
- ③ プラウ耕 深さ25~30cm

特に、スイートコーン後は、**カラ**が多いので播種量は、ばれいしょ後よりも1kg/10a程度多く播いている。

(5) 畑作専門部の活動で共に学ぶ*

本人曰く、「これまで営農を続けてこられたのは、畑作専門部の活動をとおしてほ場を見たり、意見交換できたのが大きな財産となった」という。

畑作専門部の活動は、基本的に技術の交換、研修を図ることを目的にし、毎年学習会や作物試験を行っている。今年で36年の歴史を迎えている。

畑作専門部員は41名で、4班に分かれて試験圃を設置し、畑作専門部を中心にJAの担当者と普及センターの協力により生育・収量調査、試験成績をまとめ発表会を開催し研鑽を深めている。

訓子府町は、近隣の市町村に比べ比較的収が高いのは、この学習組織の地道な活動によるところも大きいと思われる。(図7)

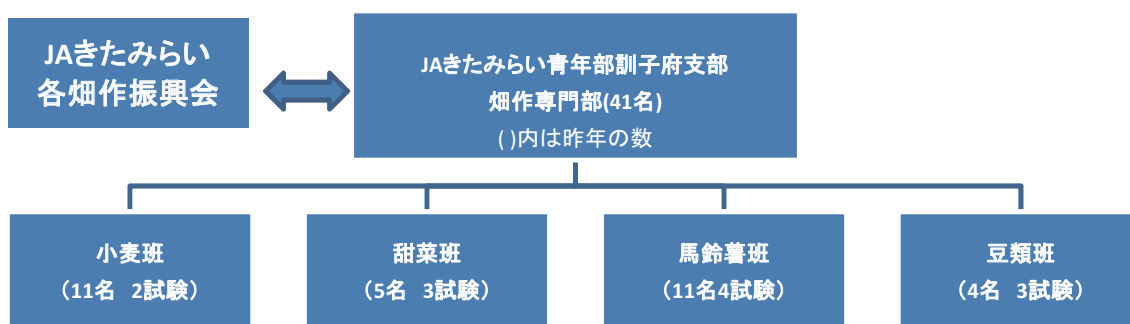


図7 畑作専門部の組織

5. おわりに

佐藤氏の祖父は、59歳の若さで病死した。その時、お父さんは、35歳であった。しかし、町内にある高校に通学しながら実際に農業を手伝っていたので、スムーズに農業を引き継ぐことができたのは幸いな事であった。

祖母は自分のことは自分でやりたいとの思いから60歳にして自動車免許を2か月で習得。町までの買い物などは、家族に頼らず自分で車を取り回して用を足してきた。89歳を期に、まだまだピンピンしているものの事故が起きてからは遅いということで、家族の説得を受け免許証を返上した。今は、大好きなゲートボールの送迎をお父さんが担っている。

前述したように、同じ地区に比べ土地条件に恵まれず、1/4の自己負担をいとわず国や道の整備事業を利用して工事を続けた。また、作業の遅れは夜なべしてでも行った。特にお父さん、お母さんの御苦勞は並大抵ではなかったと想像できる。

整備事業や家の負債もようやく昨年完済し、無事息子に引き継ぐことが出来たと安堵して

いる姿が印象的だった。

<佐藤氏のコメント>

畑作青年部をとおして、部会員の試験圃場を沢山見ることが出来た。それが自分にとって大きな財産となっている。この経験知を基に仲間と共に今後とも研鑽を重ねていきたい。

(文責 北海道米麦改良協会 高橋義雄)

*畑作専門部規約

- ①訓子府町で畑作を営む青年部層の組織
- ②相互の理解と協力をもって、技術の交換、研修を図る
- ③昭和57年度（1982年度）より活動
- ④加入、脱退に関して年齢制限は設けていない

<活動内容>

- ①学習会
- ②作物試験（小麦、馬鈴薯、甜菜、豆類）
- ③道内視察研修
- ④プロジェクト活動

麦 作

平成29年新品種紹介 二条大麦新品種「札育2号」

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部

北見農業試験場研究部 麦類グループ 主査（育種） 神野裕信

「札育2号」は、サッポロビール株式会社が開発し、平成29年1月に北海道優良品種に認定されたビール醸造用の二条大麦新品種である。ビールの香味に悪影響を与える酵素の一種（リポキシゲナーゼ）が欠失しており（以下、LOXレスと表記）、貯蔵中のビールが老化しにくい（香味が長持ちする）特徴を有する。戻し交配という手法を用いて「りょうふう」にLOXレスを導入した品種であり、収量などの農業特性や一般的な麦芽品質は「りょうふう」とほぼ同等である。

1 交配組合せ

りょうふう/SBOU2//りょうふう*7

2 優良品種に採用する理由

二条大麦は北海道で1,640ha（2015年）作付けされ、主にビール醸造用として利用されている。主産地である網走地域および富良野地域においては地域特産作物として輪作体系を維持する上でも重要な作物となっている。現在作付けされている品種は1989年に北見農試が育成した「りょうふう」で、収量性は高く、麦芽品質においても府県産と比べ遜色ない。一方、ビール品質においては、新たな付加価値を持った製品開発が求められており、貯蔵中のビールの老化を抑える形質が注目されている。

サッポロビール(株)が育成した「札育2号」は、「りょうふう」の準同質遺伝子系統であ

る。農業特性、麦芽品質および醸造特性は「りょうふう」と同等である。リポキシゲナーゼ欠失の導入により、貯蔵中のビールの総合老化度は「りょうふう」より低い。

以上のことから、「札育2号」を北海道の二条大麦栽培地帯において、「りょうふう」の大部分に置き換えて普及することにより、新たな付加価値を持った北海道産ビール原料の提供が可能となり、北海道の二条大麦の生産振興に寄与できる。

3 普及見込み地帯

北海道の二条大麦栽培地帯
普及見込み面積 1,500ha

4 普及指導上の注意事項

「りょうふう」に準じた栽培を行う。

表1 特性一覧

試験場所 系統・品種名 形質	農業試験場（北見・上川）		現地試験（網走市・中富良野町）		育成地（サッポロビール／網走市）													
	札育2号	りょうふう (標準・対照)	札育2号	りょうふう (標準・対照)	札育2号	りょうふう (標準・対照)												
試験年度	2012～14年（中富良野は2013～14年）																	
出穂期（月日）	6／24	6／24	7／3	7／3	7／5	7／4												
成熟期（月日）	7／25	7／25	8／3	8／3	8／8	8／8												
稈長（cm）	82.4	84.5	69.0	71.0	70.9	72.1												
穂長（cm）	6.2	6.1	6.1	5.8	5.8	5.9												
穂数（本／㎡）	627	590	490	470	564	545												
稔実粒数（粒／本）	21.1	20.7	21.7	20.7	20.1	20.6												
不稔率（％）	3.6	3.6	4.2	5.0	4.8	3.8												
倒伏程度（無：0～甚：5）	0.6	0.6	0.2	0.2	0.2	0.1												
子実重（kg／a）	46.2	44.9	37.5	36.3	35.9	36.0												
容積重（g／ℓ）	718	715	728	725	676	681												
千粒重（g）	48.9	50.2	48.6	50.3	48.7	49.6												
整粒歩合（％）	95.2	95.3	96.0	96.2	97.6	98.2												
整粒重（kg／a）	44.3	43.2	36.1	35.1	35.0	35.3												
対標準比率（％）	103	100	103	100	99	100												
外観品質	中上	中上	中上	中上	－	－												
裂皮粒発生程度	－	－	－	－	少	少												
穂発芽性	－	－	－	－	やや難	やや難												
赤かび病抵抗性	やや強	やや強	－	－	－	－												
麦 芽 品 質	浸麦時間（hr）	55.2	55.6	49.4	50.6	50.2	50.7											
	TP [麦芽粗蛋白]（％）	10.3	10.2	10.9	11.1	9.3	9.6											
	EX [麦芽エキス]（％）	82.2	82.5	81.7	81.2	82.4	82.2											
	SN [可溶性窒素]（％）	0.68	0.69	0.73	0.73	0.66	0.69											
	KI [コールパツハ指数]（％）	41.5	42.6	41.9	40.9	44.5	44.6											
	DP [酵素力] (WK／TN)	128	122	122	123	139	125											
	AAL [最終発酵度]（％）	84.6	84.4	83.6	83.6	85.2	84.9											
	β-グルカン（mg／ℓ）	67	55	118	118	33	52											
現場製麦・醸造試験	<p>実需者評価 醸造特性：醸造上および香味上の特性は特別な欠点がなく、「りょうふう」と差がない。 老化性：貯蔵中のビールの官能試験において、総合老化度が「りょうふう」より低い。</p> <p>用語）リポキシゲナーゼ欠失：ビール貯蔵中の品質劣化の主な原因となる脂肪酸化酵素リポキシゲナーゼ-1を持たない。老化原因物質の生成が抑えられ、ビールの老化を低減させる。 総合老化度：ビール中の味、香りにおける劣化を総合的に0.0（低）から4.0（高）まで0.5刻みで評価した。</p>																	
	<p>総合老化度 (0:低-4:高)</p> <table border="1"> <caption>総合老化度 (総合老化度) のデータ</caption> <thead> <tr> <th>年産</th> <th>札育2号</th> <th>りょうふう</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2012年産</td> <td>~1.2</td> <td>~1.8*</td> </tr> <tr> <td>2014年産</td> <td>~1.6</td> <td>~2.0*</td> </tr> <tr> <td>2015年産</td> <td>~1.6</td> <td>~2.1*</td> </tr> </tbody> </table>						年産	札育2号	りょうふう	2012年産	~1.2	~1.8*	2014年産	~1.6	~2.0*	2015年産	~1.6	~2.1*
	年産	札育2号	りょうふう															
2012年産	~1.2	~1.8*																
2014年産	~1.6	~2.0*																
2015年産	~1.6	~2.1*																
<p>図 30℃で1か月間保存したビールの官能試験（総合老化度） 注）*は5％で有意差があることを示す。8名の平均値と標準偏差。</p>																		



図2 普及見込み地帯における「札育2号」の整粒重の「りょうふう」対比(%)

注) ●は試験研究機関、◆は現地試験。試験年度は2012～14年(中富良野は2013～14年)。



「りょうふう」 「札育2号」

戻し交配により育成されたため、ほぼ同様の草姿をしている

麦 作

平成29年 新技術の概要紹介

北海道農政部生産振興局 技術普及課

主査（普及指導）（農業革新支援専門員） 片山 正 寿

1 硬質秋まき小麦「つるきち」
の高品質安定栽培法

平成24年に北海道の優良品種となった「つるきち」は、中華麺適性の高い硬質秋まき小麦で、耐倒伏性、穂発芽耐性、低アミロ耐性

に優れており、特色ある道産硬質小麦として普及が期待されている。しかし、「つるきち」は秋まき小麦の基幹品種である「きたほなみ」に比べ成熟期の穂数が少なく、耐雪性が劣るなど生育特性が大きく異なる。平成26年には

表1 「つるきち」の栽培目標および栽培体系

栽 培 目 標		
項 目	目 標 値	備 考
タンパク	13.0%	11.5~14%の範囲を逸脱しないこと。 <u>パン用途では13%以上が望ましい。</u>
収量	600kg/10a	570~640kg/10a程度の収量が期待できる
成熟期窒素吸収量	16.7kg/10a	目標収量、タンパクの確保に重要
穂数	500本/m ² 以上	道央・道北：目標とする越冬前茎数1,300本/m ² 、起生期茎数1,300本/m ²
		道東：目標とする越冬前茎数1,100本/m ² 、起生期茎数1,300本/m ²
栽 培 体 系		
項 目	実 施 方 法	備 考
播種期	越冬前主茎葉数が道央・道北6葉以上、道東5葉以上となる時期。ただし、伊達市周辺は道東に準拠する 各葉数に相当する越冬前積算気温は、6葉で580℃以上、5葉で470℃以上	1. 越冬前積算気温は、11月15日を起日とした日平均気温3℃を超えた日を遡って積算する（平年値）。 2. 播種適期は「きたほなみ」より早い。晩播は穂数や収量が低下し、雪腐病の被害も高まることから避ける。 3. <u>多雪地帯では、9/10前後を目安に早まきすることで、増収効果を期待できる。</u> 極端な早まきは縞萎縮病の発生を助長するので避ける。
播種量	適期に255粒/m ² （発芽率90%と仮定）	1. 播種が遅れた場合に播種量を増やしても、減収程度の緩和は期待できない。
窒素施肥	標準窒素施肥体系（起生-幼形-止葉 kg/10a） 全地域共通：8-4-4	1. 基肥は4kg/10aを原則とする。 2. 当該圃場または近隣圃場における「つるきち」の過去実績データが存在する場合は、 <u>窒素施肥シミュレートツールNDAS</u> により窒素施肥体系を調節できる。 3. <u>道央・道北では止葉期葉色が53以上、道東ではGI（葉色×上位茎数（本/m²））が38,000以上の場合はタンパクが14%を超過する可能性が高いため、止葉期の減肥を行う。</u> 減肥は窒素施肥量4kg/10aにつきタンパクがおおよそ1ポイント変動を目安に行う。

は種や窒素施肥について具体的な栽培目標、体系が示された。

新たに設定された事項（は種期、は種量、NDASの活用など）に下線を付した。

指導参考事項「硬質秋まき小麦「つるきち」の品種特性に対応した当面の栽培方法」にて当面の栽培法が示されたが、収量向上と子実タンパクの安定化に向けた施肥技術改善の余

地も大きかった。この対応として、本年、平成28年指導参考事項として（硬質秋まき小麦「つるきち」の高品質安定栽培法が示された。

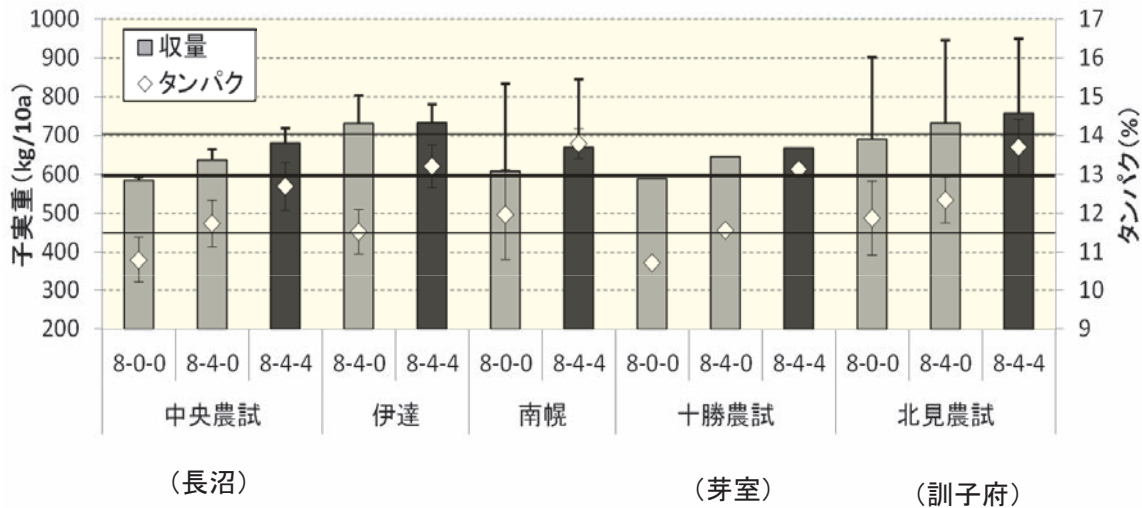


図1 窒素施肥が収量・タンパクに及ぼす影響 (2014~2016年平均)

注1) 基肥窒素は4 kg/10a (伊達は6 kg/10a) で、処理区は起生期以降の窒素施肥体系 (起生-幼形-止葉 kg/10a) を表す。
 注2) 伊達、南幌は2014と2015年の平均、十勝農試は極端な不作年 (2014、2016年) を除いた2015年のみ。
 注3) 黒の棒グラフは標準窒素施肥体系を、太実線は収量・タンパクの目標値を、細実線はタンパクのランク区分基準値の上限・下限を示す。

窒素施肥量によって増加 (収量、タンパク) することが明らかにされ、各地区において窒素施肥を行う際の目安が示された。窒素施肥の標準は、(起生期-幼形期-止葉期) : 8-4-4 (kg/10a) とした。

表2 早まきが生育・収量に及ぼす影響 (中央農試)

年次	播種期	越冬前		穂数 (本/m ²)	子実重 (kg/10a)	同左比	倒伏 (0-5)	タンパク (%)
		積算気温 (°C)	葉数 (枚)					
2014	9/9	775	7.3	540	748	104	0.0	12.7
	9/19	591	5.8	485	718	(100)	0.0	13.4
2015	9/10	680	6.4	668	680	104	0.0	10.9
	9/24	472	5.0	540	654	(100)	0.0	11.2
2016	9/7	724	6.5	698	685	107	0.0	13.1
	9/16	571	6.0	603	643	(100)	0.0	12.6

早まきで増収の効果が期待できる。ただし、温暖で過繁茂が懸念される伊達周辺のは種期は、道東に準拠するのが適当となった。

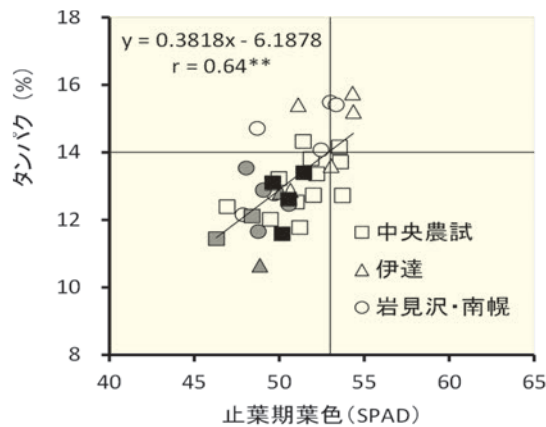


図2 止葉期葉色とタンパクの関係 (道央)

注1) タンパクは止葉期 4 kg/10a または開花期 3 kg/10a 追肥した場合

注2) 横実線はタンパクのランク区分基準値の上限、縦実線は葉色診断基準値を示す。

注3) 凡例の色は白：2014年 黒：2015年 灰：2016年

道央では、止葉期葉色が53以上、道東では止葉期GI（葉色×上位茎数）が38,000以上の時にタンパクが14.0%を上回る可能性があるので止葉期の減肥が必要。

～「つるきち」の新たな栽培目標として～

- 収量600kg/10a、タンパク質含有率13.0%を設定した。
- 窒素施肥（起生期－幼形期－止葉期）は8－4－4（kg/10a）を標準とした。
- 生産実績を活用した設計法、止葉期葉色・生育診断に基づいた対応により最適化が可能（窒素施肥シミュレートツールNDASの活用）。
- 早まきは多雪地帯で増収効果がある。

稲作・麦作

平成28年度 稲作・麦作総合改善研修会を開催しました

本年度も、米麦のさらなる安定生産・品質向上を図る目的として、3月3日(金)にホテルモン・トレエーデルホフ札幌(札幌市)にて研修会を開催し、全道各地の生産者・農協や関係機関・団体などから220名の参加をいただき、米麦共励会の表彰式をはじめ、生産技術等に関する優良事例発表および外部講師による特別講演を行いました。

表彰式では、最優秀賞を受賞された8名(個人・集団)の方々に北海道知事賞と北海道米麦改良協会会長賞を授与し、受賞者を代表して、稲作は今野氏(旭川市 JAあさひかわ特別栽培米部会副会長)、麦作では干場氏(岩見沢市 有岐阜コントラクター 代表取締役)より日ごろの良質米麦生産に向けた取り組みや、経営状況などについて優良事例の発表をいただきました。

特別講演では、半田氏(一般財団法人 日本気象協会北海道支社 気象予報士)に「北海道の気候変化 これまでとこれから」～農業への影響も含めて～と題して講演いただき、昨夏の台風発生や今後の北海道への台風来襲の可能性、また近未来における天候予測などについてお話しいただき、今後の良質米麦生産に向けてたいへん参考になりました。



開会挨拶



事例発表 JA あさひかわ特別栽培米部会



知事賞杉野ご夫妻 (美唄)



半田気象予報士

稲 作

第54回（平成28年度）北海道優良米生産出荷共励会審査結果

第54回（平成28年度）北海道優良米生産出荷共励会へ各地区から出展いただきありがとうございました。

本年度は「移植栽培部門」と「直播栽培部門」をあわせて合計5点の出展をいただきました。

第2回審査委員会を1月18日に開催し、現地調査を経て、正式に部門ごとの各賞を下記のとおり決定いたしました。

第54回（平成28年度）北海道優良米生産出荷共励会表彰者

※敬称略

1. 移植栽培部門

【個人の部】

第1部 うるち米（12ha以上）

優秀賞 吉田 靖志（蘭越町）

第3部 うるち米（2ha以上6ha未満）

最優秀賞 奥村 俊也（平取町）

第4部 もち米（2ha以上）

最優秀賞 木下 尚広（遠別町）

【生産グループの部】

第1部 うるち米（50ha以上）

最優秀賞 JAあさひかわ特別栽培米部会（旭川市）

2. 直播栽培部門

【個人の部】

第1部 うるち米（6ha以上）

最優秀賞 長谷 浩幸（妹背牛町）

稲 作

第54回（平成28年度）北海道優良米生産出荷共励会審査結果

第54回（平成28年度）北海道優良米生産出荷共励会へ各地区から出展いただきありがとうございました。

本年度は「移植栽培部門」と「直播栽培部門」をあわせて合計5点の出展をいただきました。

第2回審査委員会を1月18日に開催し、現地調査を経て、正式に部門ごとの各賞を下記のとおり決定いたしました。

第54回（平成28年度）北海道優良米生産出荷共励会表彰者

※敬称略

1. 移植栽培部門

【個人の部】

第1部 うるち米（12ha以上）

優秀賞 吉田 靖志（蘭越町）

第3部 うるち米（2ha以上6ha未満）

最優秀賞 奥村 俊也（平取町）

第4部 もち米（2ha以上）

最優秀賞 木下 尚広（遠別町）

【生産グループの部】

第1部 うるち米（50ha以上）

最優秀賞 JAあさひかわ特別栽培米部会（旭川市）

2. 直播栽培部門

【個人の部】

第1部 うるち米（6ha以上）

最優秀賞 長谷 浩幸（妹背牛町）

◎良質米麦の出荷目標



- 一等米 100%
- 整粒歩合80%以上確保
- 精米蛋白質含有率6.8%以下
- 仕上がり水分14.5～15.0%
- 入れ目1%以上確保
- 全量種子更新



- 一等麦 100%
- 低アミロ麦皆無
- DON暫定基準値1.1ppm以下でできるだけ低いこと
- 赤かび粒混入限度 0.0%
- 異臭麦皆無
- 十分な入れ目の確保
- 全量種子更新

◎農産物検査事業の方針

- ◆公平、公正、迅速に行う。
- ◆必要な技術的能力の維持・向上に努める。
- ◆客観性・公平性から他部門からの影響排除。
- ◆制度の適正な運営に寄与する。



発行所

一般社団法人 北海道米麦改良協会

〒060-0004 札幌市中央区北4条西1丁目 共済ビル5階 TEL 011-232-6495 FAX 011-232-3673

【業務部】E-mail beibaku@basil.ocn.ne.jp

【検査部】E-mail beibaku-kensa@carrot.ocn.ne.jp

北海道米分析センター

〒069-0365 岩見沢市上幌向町216の2 TEL 0126-26-1264 FAX 0126-26-5872

E-mail bun1@plum.ocn.ne.jp

<http://www.beibaku.net/>